

1. 事業経過

- ・現クリーンセンターは、平成6年4月に稼働（28年経過）
- ・平成22～25年度 延命化工事実施 → 令和5年度まで稼働期間を延長
- ・平成26年度 再延命化ではなく建替えることに決定
- ・平成27年度～ 建設に必要な各種調査（用地測量、地質・土壌調査、環境アセス）を実施
- ・平成28年1月 施設整備基本構想策定
- ・平成29年3月 施設整備基本計画策定
- ・平成30年11月 建設価格の高騰により、事業延期を決定

2. 施設整備に係る基本方針

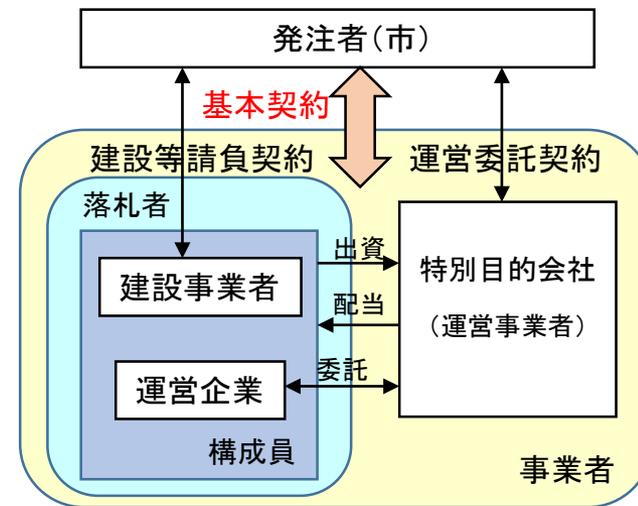
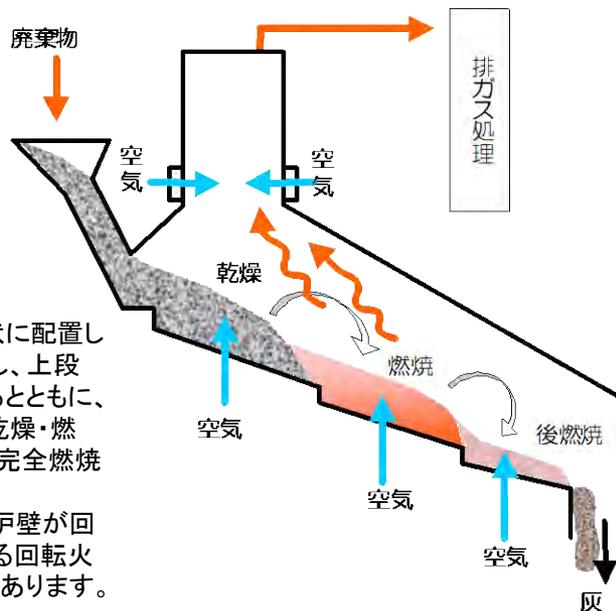
- ① 効率的に熱エネルギーを回収する施設とする → 高効率蒸気タービンによる発電
- ② 安全性・安定性に優れた施設とする → ストーカ式、3炉
- ③ 災害に対して強靱な施設とする → 水害・地震対策、災害廃棄物処理
- ④ 市民への情報発信の拠点となる施設とする → 環境学習施設
- ⑤ 経済性に優れた施設とする → DBO方式の採用、適正規模



◆ ストーカ式焼却炉

ストーカ式焼却炉とは、主に階段状に配置した火格子(ストーカ)を前後に動かし、上段から下段へのごみを移送・攪拌するとともに、火格子下部より燃焼空気を送り、乾燥・燃焼・後燃焼の順に、効率よくごみを完全燃焼をさせる方式の焼却炉です。

なお、右図に示す階段式のほか、炉壁が回転する円筒形の火格子となっている回転火格子式など、火格子の型式は複数あります。



◆ DBO方式の概念図

3. 施設規模について

	現クリーンセンター (R2 実績)	基本計画での計画値 (R6)	計画値 (R12)
人口推計	497,565 人	約 44万人	市川市一般廃棄物（ごみ） 処理基本計画の見直しに より変更予定
可燃年間処理量	117,670 t/年	96,000 t/年	
焼却能力	600 t/日	396 t/日	
不燃年間処理量	5,639 t/年	4,100 t/年	
破砕能力	75 t/日(5h)	21 t/日(5h)	
発電能力	7,300 kW	11,000 kW (環境アセス設定値)	

4. 整備スケジュール

